

郷土資料の散歩道

図書館郷土資料室

☎21-6111 内線6201

よね ざわ さん ぶつ しゅう
米 沢 産 物 集

江戸中期に作成された
米沢藩領内の植物・動物・
昆虫の一覧

今回は、図書館郷土資料の中の「米
沢産物集」を紹介します。元文二年



(一七三七)に幕府に提出した「産物帳」の写で、米沢藩領内に見られる植物・動物・昆虫・鉱物等を網羅的に記しています。

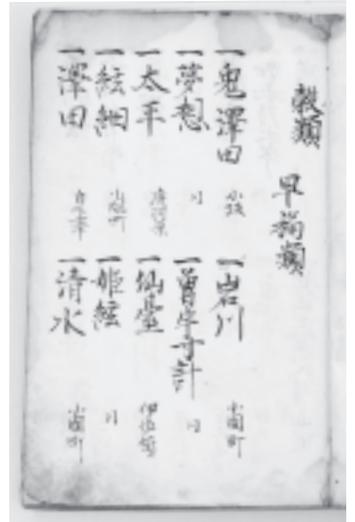
江戸幕府の医師・本草学者の丹羽正伯は享保二十年(一七三五)に各藩に産物帳の作成を命じ、提出されたものを確認、不明なものについては絵図・説明を付けて再提出させました。米沢藩では儒学者の片山紀兵衛が編集して提出が命じられ、絵師目賀多柳川に図を描かせ、元文二年正月に産物帳一冊と図帳一冊が完成、幕府に納めました。

この時全国から集められた産物帳と図帳は残念なことに行方不明となつていきます。しかし、各地には控や写が残されており(約四〇地区)、江戸中期の動植物の様相を知ることが出来る貴重な資料となっております。「米沢産物集」も生産地の地名が記されるなど形式が少し異なりますが、幕府に提出した産物帳の写と思われる。図帳はまだ発見されていません。

数多い稲の品種と

豊富な作物

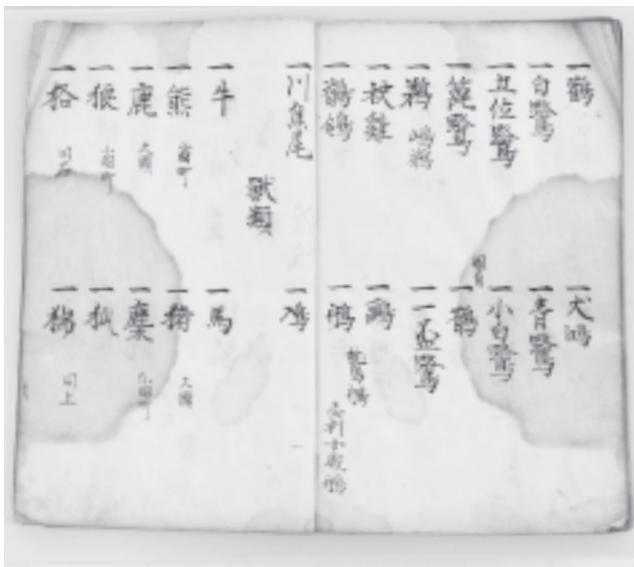
最初に記されているのが稲の種類



▲早稲の品種

で、早稲が小坂村(小国町)の鬼沢田や古志田村の土宇寸計など三三、中稲が一三、晩稲が一八、糯米が一七で合計八一種と多品種の米が植えられていたことに驚かされます。これは米沢藩内に限ったことではありません(陸奥国盛岡領では一三七種)、長年にわたる品種改良や、土地・気候にあわせ多品種を育てた先人の知恵がうかがわれます。

また、大豆が二七種、粟が一九種、大根六種と、野菜・果樹にも多品種が記されています。茄子は丸茄子・長茄子・巾着茄子・金銀茄子の四種が見えますが、有名な「窪田茄子」の名は見えませんが、そのほか、五加木苗も見え、江戸中期の米沢の植生や農業・食生活をj知る上で重要な資料となっています。



▲獣類には狼のほか、鹿や麋(小型の鹿)、も見える

米沢でも見られたオオカミ
・カワウソ・トキ・コウノトリ

産物帳には植物のほかにも、魚類・鳥類・獣類・虫類の名が記されています。その中には、現在の日本では絶滅あるいは絶滅の危機にあるオオカミ・カワウソ・トキ・コウノトリ等の動物も多く見られ注目されています。

「米沢産物集」でもそれらの名が確認されるほか、陸奥国盛岡領、出羽国庄内領、長門国(山口県)等、広い範囲で確認されます。江戸時代の豊かな自然環境および、こうした動物達と身近に共生してきた人々の姿が思い起こされます。